

## 成田市インターネット市政モニター アンケート集計結果（第23回）

第23回のテーマは「ひきこもりに関するアンケート」でした。

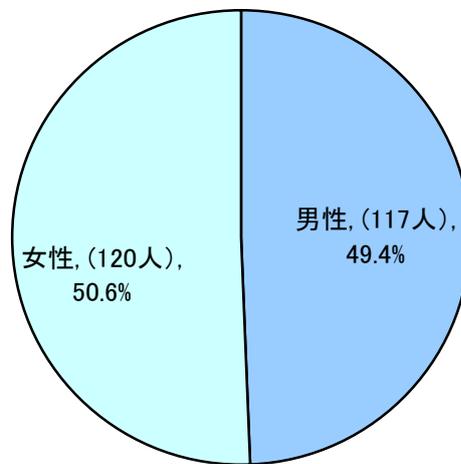
登録者数：349人

実施期間：平成27年11月19日(金)～11月30日(月)

回答者数（回答率）：237人（67.9%）

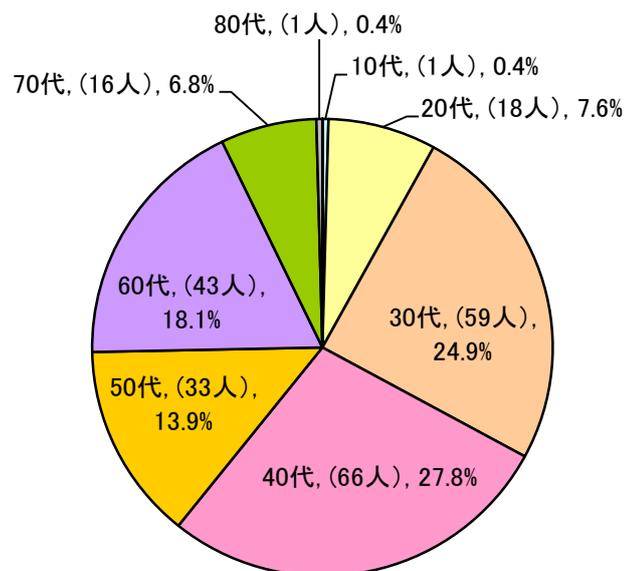
性別

(n=237)



年代

(n=237)



[Q1]「ひきこもり」という言葉を聞いて、どのようなイメージを思い浮かべますか。  
(複数選択可)

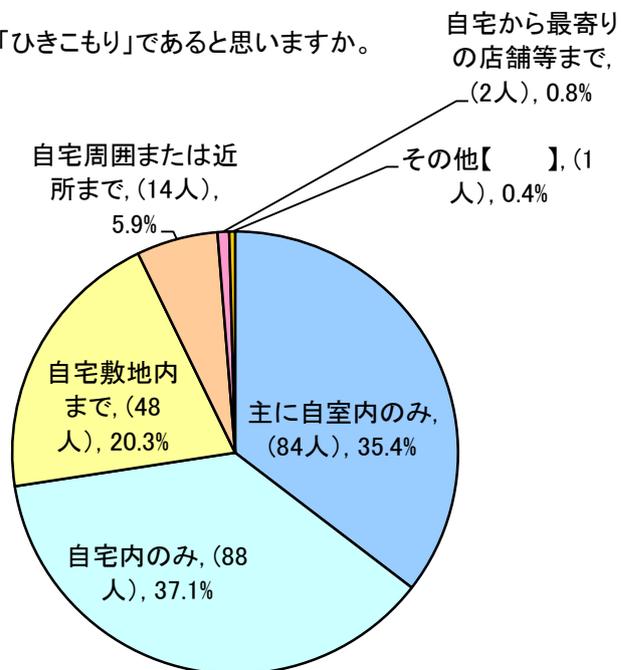
(n=237)



「ひきこもり」の言葉のイメージとして、学齢期の子どもや若者が自宅にいる、または50代までの若い年代の方が自宅にいて、老親が支援をしていると考える方が多いことがわかりました。

[Q2]生活範囲がどの程度であれば「ひきこもり」であると思いますか。

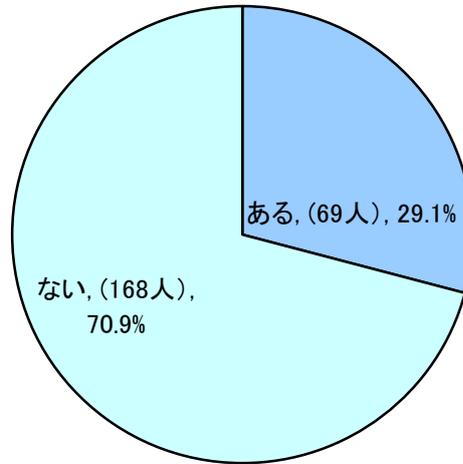
(n=237)



ひきこもりの生活の範囲として自室内、自宅内と答えた方が72%あり、併せると92.8%の方が自宅敷地内が生活範囲と回答しています。

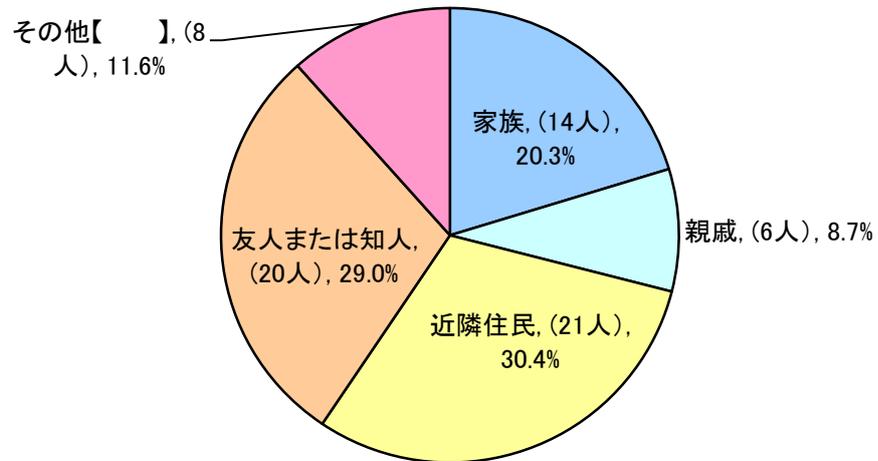
[Q3]あなたの周りに「ひきこもり」の方がいると聞いたことがありますか。

(n=237)



[Q4]その「ひきこもり」の方は、どのような方ですか。

(n=69)



身近にひきこもりがいると聞いた方が 29%あり、その内訳として、近隣が 30%、家族が 20%、友人知人を挙げた方が 29%いました。

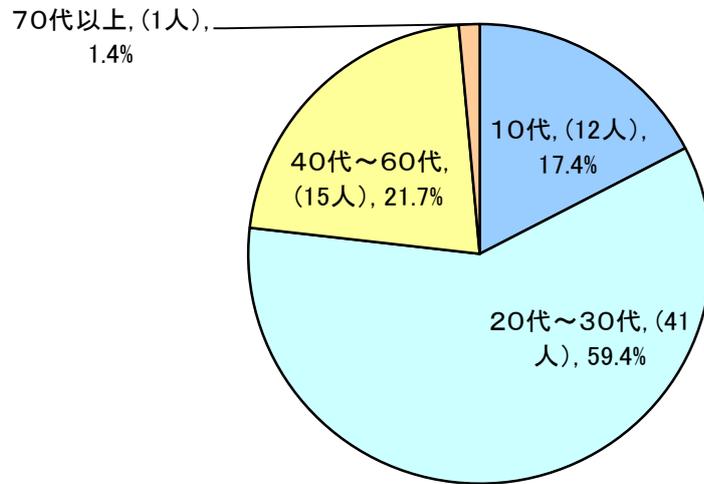
その他として

- ・知人、友人の家族
- ・仕事上の知った人

が挙げられていました。

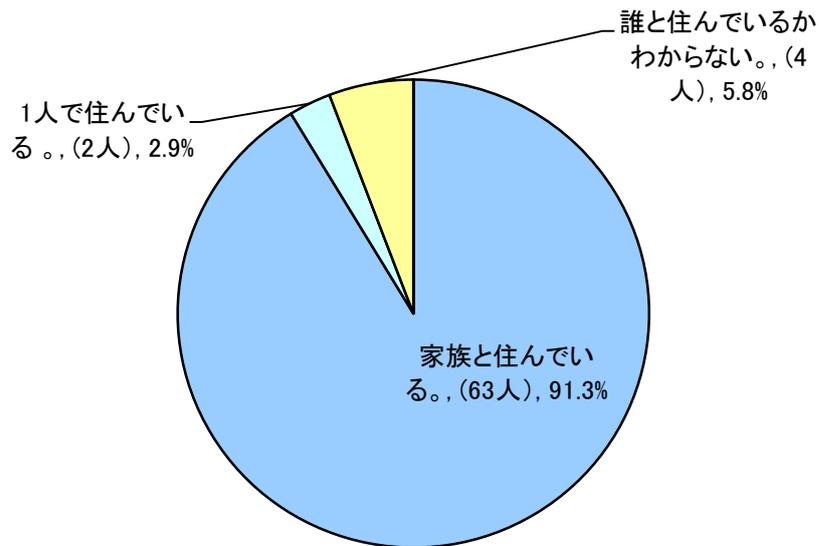
[Q5]その「ひきこもり」の方の、大まかな年齢を教えてください。

(n=69)



[Q6]あなたの周りの「ひきこもり」の方の、生活状況について教えてください。

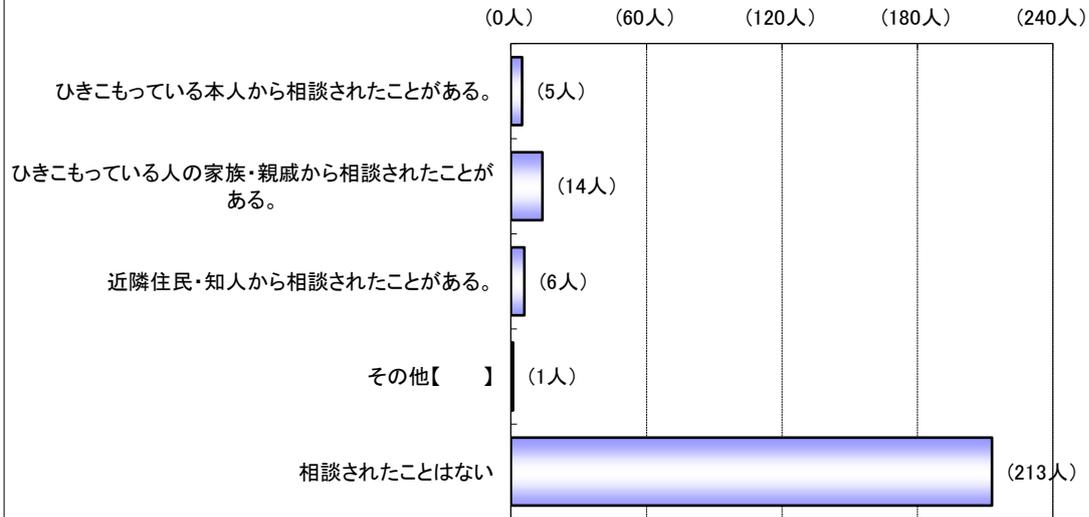
(n=69)



知っているひきこもりの方は、20代~30代の方が59%で、次に40代~60代の方が21%でした。91%の方が家族と住んでいると回答しています。

[Q7]あなたは、「ひきこもり」に悩む当事者の方から相談されたことがありますか。  
(複数選択可)

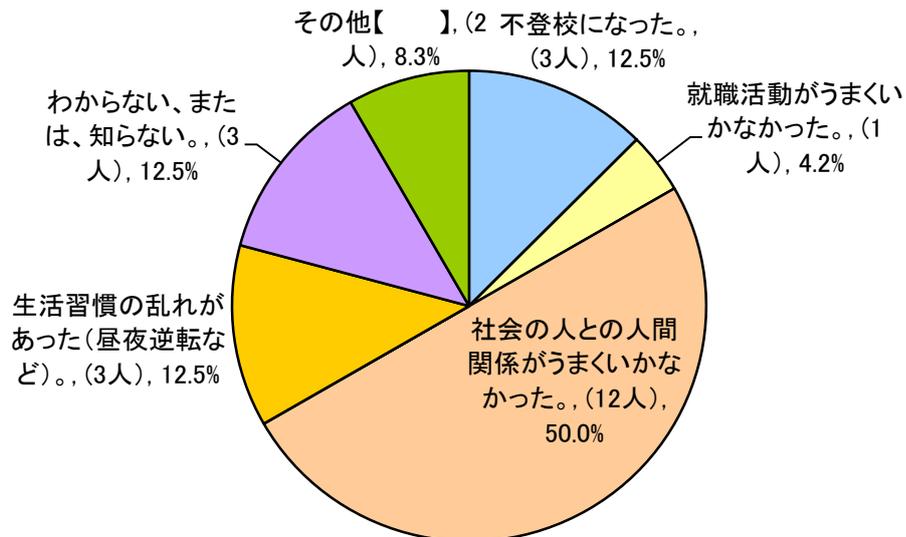
(n=237)



ひきこもりについて相談を受けたことがない方が、89.9%でした。

[Q8]その「ひきこもり」の方の、ひきこもるきっかけは何ですか。

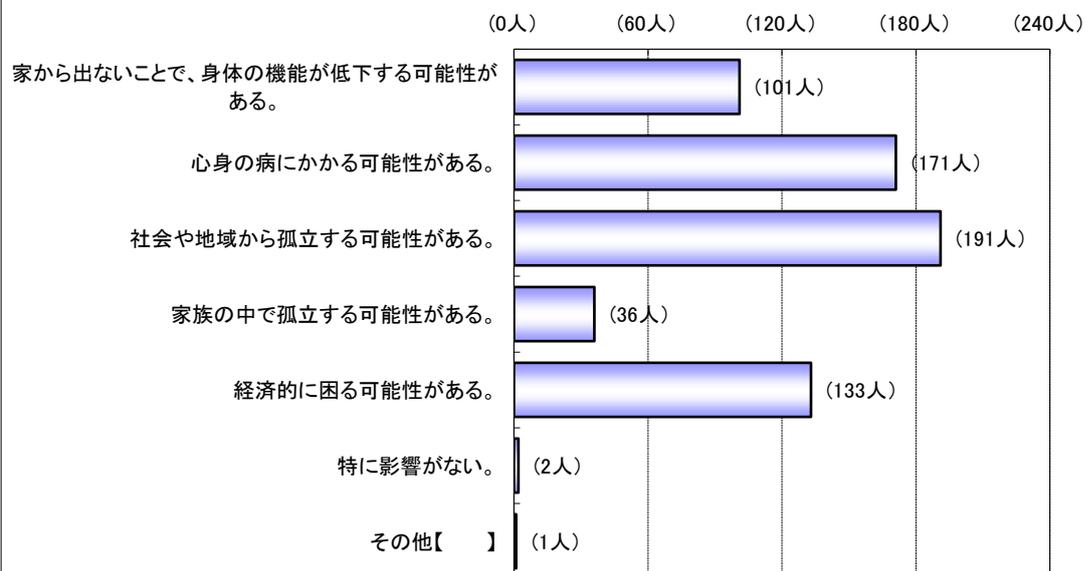
(n=24)



ひきこもりのきっかけとして、社会の人間関係を挙げた方が50%、不登校は12.5%ありました。

[Q9]「ひきこもり」が続くことで、ひきこもりの方本人の日常生活にどのような影響があると思いますか。最も影響があると思うものを3つまで選択してください。

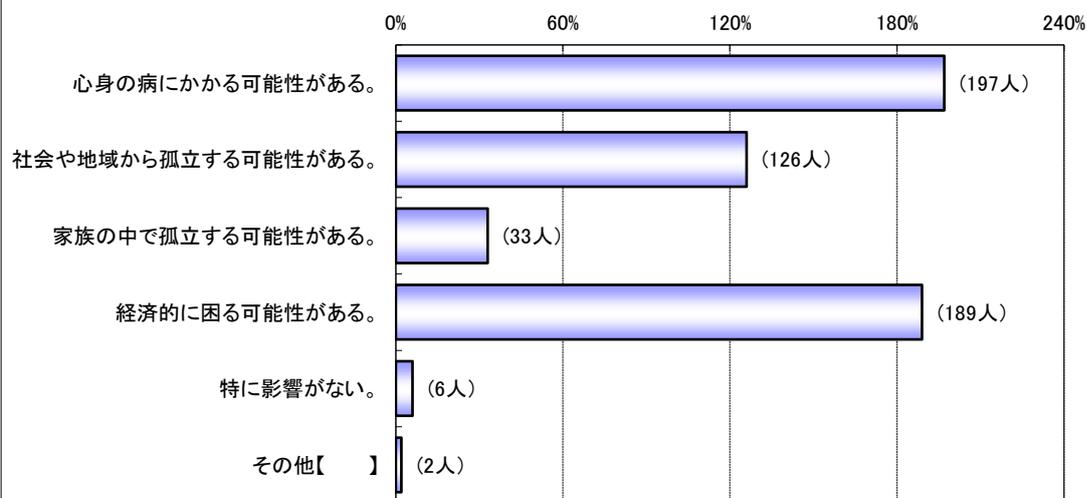
(n=237)



ひきこもることでの影響として、社会からの孤立、心身の病、経済的な問題が挙げられていました。

[Q10]「ひきこもり」が続くことで、ひきこもりの方の生活を支援する家族等にどのような影響があると思いますか。最も影響があると思うものを3つまで選択してください。

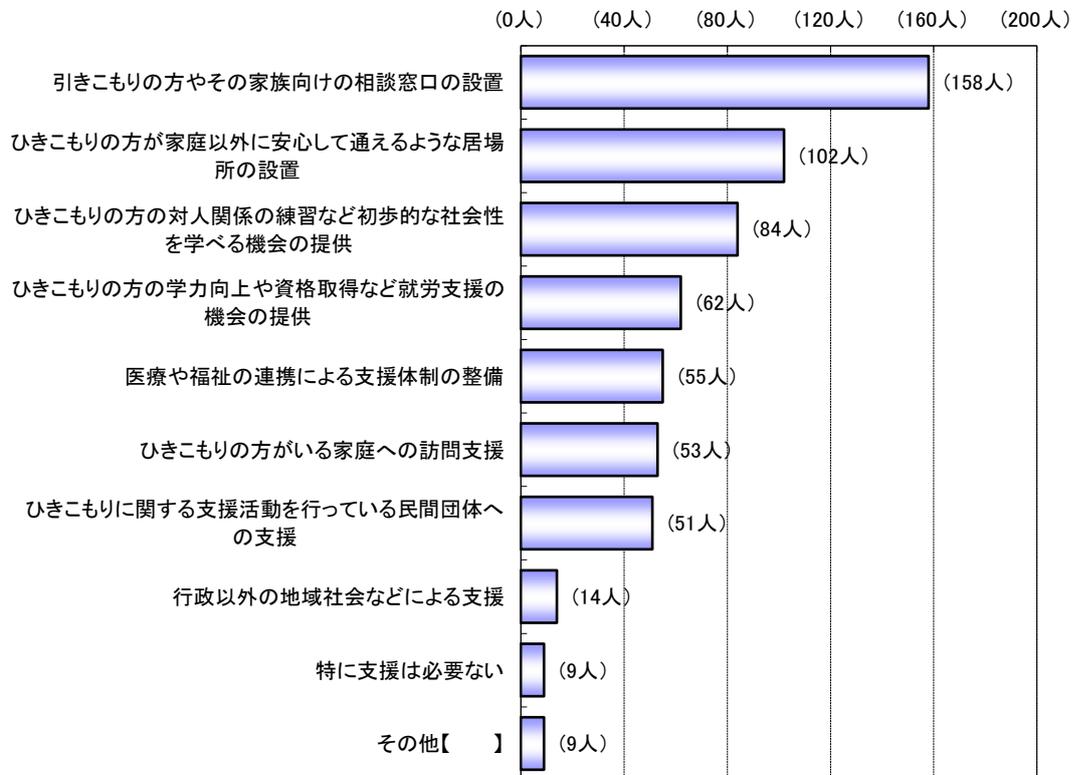
(n=237)



ひきこもりの方の家族への影響として、経済的な問題、心身の病、社会からの孤立が挙げられていました。

[Q11]ひきこもりの方やその家族に対して、行政はどのような支援を行うことが必要だと思いますか。(3つまで選択可)

(n=237)



行政が行う支援として、相談窓口の設置、ひきこもりの方が通う居場所、社会性を学ぶ場所が挙げられていました。

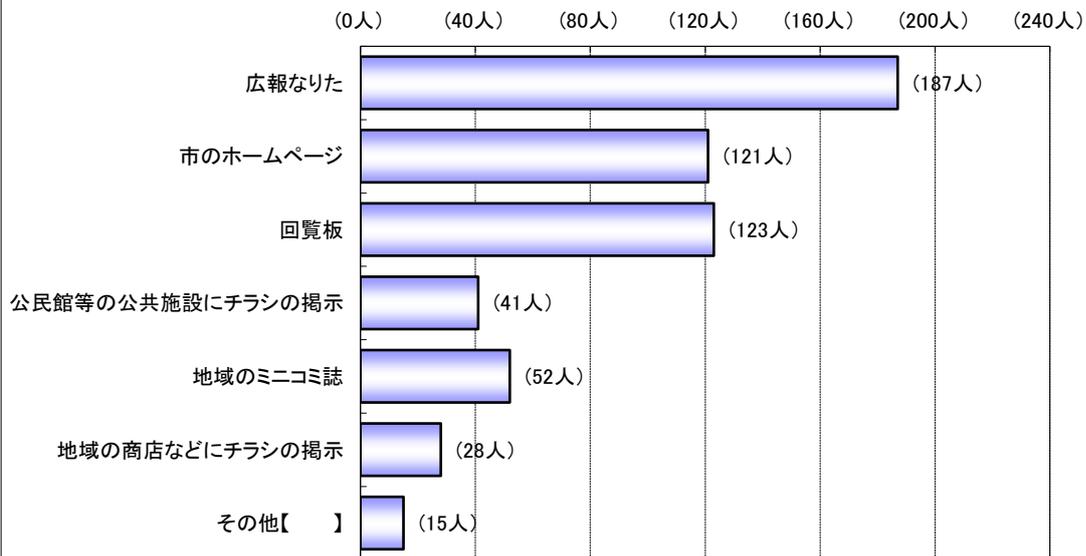
「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。

- ・ひきこもりに関する理解についての学習機会の提供（講演会など）
- ・引きこもりの原因を親身になって解きほぐす対応の実施
- ・まずはひきこもりの人の話を聞いてあげるのが第一だと思う
- ・家族へのカウンセリング
- ・ひきこもりの方の趣味の世界に押し出してあげる。参加させる努力。音楽、運動、料理、読書、PC、ゲーム等も含め、ボランティア活動への参加「最初は一人で、なれたら二人にと順々に出来る仕事を進んで参加できる環境作り。
- ・心療内科へ通う場合の医療費補助
- ・画一的な教育体制の変更を検討する。学校へ行く事だけが人生のすべてではない
- ・所得未申告、所得皆無の人に対する実態調査をおこない、経済的に困窮しているのに、就労していない人に対して、上記の支援をする。

などの意見がありました。

[Q12]ひきこもりの方やその家族に、支援などの情報を届けるにはどのような方法が有効と考えますか。(3つまで選択可)

(n=237)



ひきこもりの方や家族に情報を届ける手段としては、広報、ホームページ、回覧板が挙げられていました。

「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。

- ・ ケーブルテレビやコミュニティラジオ
- ・ ダイレクトメール・Eメール
- ・ 新聞折り込み、インターネット広告
- ・ 2ちゃんねる
- ・ 自治体の活用、学校、幼稚園、床屋、美容院
- ・ 医療施設にポスターやチラシを置く
- ・ 担当者の訪問、(但し周囲に引きこもりへの対応であることを気付かれないようにすること。)
- ・ 人間が直接訪問できる体制を検討し試験的でも良いから実行に移す。
- ・ 地域の人が訪問する
- ・ 相当する年齢で無職者のピックアップ
- ・ 自分で這い上がらなければ他人が手を差し伸べても効果はないと思う

Q13 その他、ひきこもりに関するご意見をお書きください。(自由記述)

《 相談窓口の設置 》

- ・ 専門知識を有する相談室の設置、増設。
- ・ ひきこもりで悩んでいる本人、家族にとって、自由に相談できる窓口が市役所があれば助かる人がいると思うので、ぜひ相談窓口を設置してほしい。
- ・ 家族の中に引きこもりの子、あるいは成人がいることは、家族に相当な心理的、経済的にも

負担になるだろうと思われる。しかし、なかなか他人には相談しにくいことなのではないのだろうか。専門の知識のあるNPOなり、窓口の存在を知らせることが最初で、その団体を応援していくことが支援につながると思う。

- ・市役所の職員では限界がある。専門家に委託すべきだと思う。
- ・市でひきこもりに対する窓口を設ければ、ひきこもりしている人の家族などが相談しやすいと思います。
- ・様々な理由があると思うも、それぞれの立場の方が相談しやすい環境を整備することも必要だと感じています。
- ・周囲が相談しやすくするような環境づくりが大切だと思います。行政の支援が不可欠ですがプライバシーとの絡みもあり難しい問題だと思います。どのような支援が必要なのかを関係者から聴取するなどの方法も必要だと思います。
- ・引き籠りの理由は千差万別と推察する。いつでも誰でも（本人・家族・周囲の隣人）気軽に相談できる場所の存在が大切かと思います。また、支援を望む方々へ、支援の機会・場所の所在が十分周知されていない様にも思います。
- ・ひきこもりという言葉自体に、ネガティブなイメージがあります。相談窓口などを増やして、ひきこもる人がいなくなるとういいます。
- ・ひきこもりは病気のひとつであると思います。気軽に相談できるような場所が必要なのでは。
- ・家族や本人が抱え込んで出られない話せない環境にあれば行政が手を差し伸べてもと思いますが、正直なかなか近所の人間は関わっても腹をわって話せないのが難しいのかなと思います。第三者というかあまり顔を合わせない人と新たに人間関係を築いていくのもいいのかなと思います。心理士など追隨して関わるのもいいかもしれませんね。
- ・ひきこもりの人たちが集まって、話し合える場所をつくと良いとテレビ放送でやっていました。
- ・自治体の職員、近所の人々が訪問するしかないと思う。引きこもりは結局外の情報に疎いので。
- ・数多くの事例を手掛けている、引きこもりの相談に乗ってあげる団体（行政に限らない）に対しての行政の支援が大切であると思う。
- ・外に出るきっかけが難しいと思う。
- ・知人の場合は、行政や知り合いに話すことを躊躇っていたので、行政が窓口を作っても家族や本人からの相談を受けるのは難しいと思います。行政側から、ひきこもりを見つけ出すことが出来れば、糸口が見つかるのではないかと思います。
- ・引きこもりの方を社会の中で暮らせるようにする為、引きこもりの方を集めて、引きこもり事例の映像（または映画）などを観て、その後のフリーディスカッションなど、同じ境遇の方との交流を図るのは有益だと思います。
- ・引きこもりでも、少しずつ回復して社会復帰できるように、講演など開いて欲しいです。

#### 《 家族支援 》

- ・家族の問題と思い、行政に相談できない方も大勢いると思います。家庭から行政に繋げることが大事だと思います。
- ・他人が入れる問題ではないが家族への支援は必要だと思う
- ・数学の公式のようにすぐに答えの出る事ではないかと。原因は何なのか？自分達に原因が

あるのではないかと？家族の方々は心を痛めていたり、自問自答していると。まず家族の心のケアから取り組んだ方がいいと思います。支える人はいつでも元気でいなければ。

- ・引きこもり者が居るといふ事をなかなか世間に話せない家族への具体的な援助の手を行政は積極的に差し伸べて欲しい
- ・引きこもりの本人も家族も大変つらいと思う。何とかして助けてあげたい
- ・本人が最もつらい立場にあるのだが、周囲はただ戸惑い迷惑がるばかりである。まずはその家族の意識変革が求められると思う。そこに行政の努力は向けられなければならないのではないかと。
- ・テレビでひきこもりの番組をよく見るが、家族が恥だと思ひ子どもの言いなりになることだけは避けるべきだと思う。思い切って相談して自分たちの身や精神を守ることが大切だと感じる。何かきっかけを自治体は作ってあげて欲しい。
- ・ひきこもりと聞くと自分の責任でこうなったという感じでなかなか行政に頼ることは思いつかないと思うので、行政の関わりはご家族の助けになると思ひます。
- ・話だけですが、ひきこもりの成人の方の家族は、出来るだけ機嫌を損なわないように逆らわないようにそっとしている方が多いように感じます。
- ・引きこもりの家庭などが他の人に知られたくない等の意識を変える取り組みが必要。
- ・難しい問題で、家族に心の余裕を与えるのが重要かと思ひます。社会もとげとげしい対応をせず、見守りなど間接的な環境を整える対応をしていただければと思ひます。また、NPO等支援団体への確かな支援も大事かと思ひます。
- ・家族だけで解決する事は、困難だと思ひます。ぜひ、行政の積極的な支援をお願いします。
- ・若年者のひきこもりについては、就労支援、雇用条件の引き上げといった基盤を経営者協会等を巻き込み、行う必要があると考える。また、親が子の自立を妨げる原因について、意識改善を男女共同参画推進の啓発セミナーテーマに掲げて行うといった、引きこもり者とその家族の両面への支援が必要と考える。
- ・ひきこもりは当人だけの問題でなく、家族の問題だと思ひるので、行政が介入できるのであれば、家族のサポートやアドバイスなどをしてくれたらいいと思ひます。

## 《 学校教育 》

- ・就学時の引きこもりの原因の一つに、いじめ問題が多いケースが見受けられる。学校内や教室でのいじめの早期発見と対応が重要と思ひます。
- ・心理のプロ、不登校専門の学習フォローのプロ、社会的に大人になれる自立支援のプロからアドレスや学校会社にしばられない人生活躍の場について提案することが重要と考える。
- ・学童の場合いじめの対象になっている可能性があるためその対策がもとめられる。
- ・引きこもりの原因の大半が、教員の不用意な言動及びクラスメートからの陰湿ないじめ(教員は全く気付いていない)に起因することを認め、真摯に反省していることを公の場で公表することが第一歩となる。そのうえで、引きこもり対策での実績のある方々からの教育訓練を教員及び市の関係者に受講させ、実践を積み重ねるべきである。
- ・引きこもりと言ったら、小中高校生のイメージが強い。他の子と比べて劣等感を抱いてしまうことが一番の原因なのではないかと思ひます。人それぞれでいいんだと思ひるよ

- うな取り組みを経験させてあげることが大事なのではないかと思います。
- ・子供を持つ親としては、学校の透明化を推進してもらいたい。子供を安心して任せられる場として知ることのできるひきこもりへの対応もしやすくなるのではないのでしょうか。
  - ・私が知っている引きこもりは、中学の時のイジメが原因でした。今 30 才位でまだ引きこもっているのが社会に参加出来るようになるか心配です。何とかしようかとしても家族で何とかするからと他人は入れません。
  - ・社会の中で、「勝組、負組」のような表現と、実態をなくすこと、地球上に 60 億人存在すれば、60 億の意見、考え方があると思う。社会における、価値観の固定的観念が、気持ちの弱い人 (DNA 的に) を、つぶすことにつながっている。誰でも良いところは、あると信じられる、教育を、目指すべき。
  - ・引きこもりの初期段階 (まだ学校へはどうか通える) での精神科医等専門家による気づきと治療の機会が積極的であると良い。特に家族は深刻な精神的病への進行が不安でも、なかなか本人を精神科へは連れて行けないと思う。
  - ・学校や地域の団体等で、支援できればよいと思います。

#### 《 支援方法 》

- ・地域での支援が必要と思われる。
- ・テレビでも特集されていましたが、やはり引きこもりの辛さは経験した事がある人しか本当にはわからないらしく、その通りだと思います。以前は引きこもっていたけど今は学校、社会に出ている人が自宅訪問して話をしたりする方が信頼関係が築けるのではないのでしょうか？カウンセラーの方、一人が訪問するより理解してもらえてるという安心感が出てくるかもしれません。勝手な見解ですが。
- ・イメージに過ぎないが、ひきこもりの人はネット依存傾向があるように感じる。施設や会合の整備も必要とは思いますが、そこへ誘導するにはネットを利用しない限り、効果的な取り組みが難しいのでは。また、同じような経験をした人の話ならば、耳を向ける傾向があると聞く。労働力として活用する為にも、積極的かつ効果的な取り組みを期待する。
- ・ご家族の方は いかにか大変か想像する事しかできませんが、テレビドラマ等を参考にさせていただくならば、ご本人は、パソコンを操作できる可能性があると思われますが、ウェブサイトを通して働きかけることは出来ないのでしょうか？とても難しい問題だと思います。
- ・孤立していると思うので外部からの支援が必要だと思う。
- ・引きこもりになってからでは普通の生活にもどすのは大変だと思います。日常生活の中で人と接する機会をできるだけ増やし殻の中に閉じこもらないように周りの人が協力することがいいと思います。
- ・親など、本人に支援をしている人が自ら発信する必要があるが、近所に知られたくない意識が強いと思う。そのため、相談窓口は声が漏れない個室の環境が、訪問する場合は相談者の意思に沿った時間帯に対応することが必要だと思う。
- ・ひきこもりになる人にはきちんとした原因があると思う。その原因を解決するには、意外に家族ではなく他人に解決する糸口を見出してもらった方がいいのかもしれない。
- ・ひきこもりを社会に出すまでの流れを複合的な支援で進めて行く事が必要。ボランティアなどとの連携も必要になって来る。また無理に出す事で悪化する事が良くある。

- ・ひきこもりの人たちをサポートするような支援施設などがあると良いと思う。(放課後、通えるような児童施設など)
- ・引きこもりの方を社会の中で暮らせるようにする為、引きこもりの方を集めて、引きこもり事例の映像(または映画)などを観て、その後のフリーディスカッションなど、同じ境遇の方との交流を図るのは有益と思います。
- ・ひきこもりの方々には色々なタイプがあるから、家に居て行っている事(趣味等)を心の休まる公共の場所で行える様に連れ出す事から始めては。ゲームが好きならゲームのアドバイザーに、仕向けて他の人と接する機会を広げるとか、天気の良い日はボランティア活動に引き出して、ごみ拾いでも図書館の本の整理でもOK。他人と接しさせる努力が良いと思います。
- ・基本的には本人と家族の問題であり、医療・学校が支援の中心となるべき立場にあり、行政として直接的に支援できる範囲は限定されると思う。(社会全体に対する「福祉」と個人的な問題とのグレーゾーンに位置する問題かと思う)行政が介入できる範囲としては、医療・教育等の組織・団体が活動し易い環境整備、啓発、家族等に向けて支援団体等の紹介、等にとどまるのではないか。
- ・在宅でもできる仕事や修学の斡旋があるといいかもしれない
- ・身近にいないので実感がありませんが家族の心配や本人の不安は大きいと思います。カウンセラー等のアドバイスや興味のある事を学習するなど社会との繋がりは絶たない方がいいのではないのでしょうか？
- ・当事者家族。不登校から16年たった今は、母親と二人で日中過ごす。時々、母親の運転でドライブに行く。人のいないところで散歩する。ひと月に一回精神科に通院中。支援はほしいが本人が他人を嫌がる。

#### 《 自己の問題 》

- ・自分次第
- ・ひきこもりの何が悪いのかよく分からない。一人になりたい時間は誰にでもあるから、一人で過ごす時間が長すぎるのかな？そっとしておくのも良識だと思う。
- ・本人が最終的には乗り越える問題である。しかし家族、地域、市が今の日本で解決する為に何が出来るか本当に真剣に考えなければ解決しない。
- ・家族以外の支援の手が届き難いことが解決の難しい所だと思います。以前、親族にウツの患者がいました。家庭の中から出掛けて行く事が出来ず、本人の意思で通院して完治しました。やはり本人の意思以外、解決の糸口が無いと思います。難しいですね、ひきこもり。
- ・引きこもりは単なる家庭問題であり、市政などの行政が干渉する問題ではないと思う。
- ・自分の意思でひきこもっているのだから、公的機関が行うことではないと思う。

#### 《 その他 》

- ・子供、老人も大きく言えばいじめから、ひどくなる前に手を差し伸べる必要があるが、変わってる、付き合わないほうが良いの状態の時、手を差し出せるかではないかです
- ・なぜひきこもりになってしまうのかということを考えるとき、人と接触することが苦痛に

なるということがまず第一に挙げられるのではないかと考えます。多くのひきこもりがそうなのではないかと考えます。つまり、原因もなくある日突然ひきこもりになるというのではないのです。誰か原因を作った人間がいるはずなのですが、それが誰なのかは、ひきこもりになってしまった本人以外には知るひとがない。さらに悪いことには、ひきこもり本人からその原因を語られることはないということがますますこの問題を難しく、深刻なものにしていると言えらると思います。ひきこもりになっている人は、苦しんでいるのだと思います。そのことを解決するためには、まず原因を突き止め、その原因を取り除かなければなりません。つまり、誰が原因なのかという個人を特定することが大切であり、これは、いじめの犯人探しと同じでなかなか難しい問題だと思います。

- ひきこもりには、いろいろな事情があると思うが、初期の段階での対応が必要と思う。やはり家族の誰かが気づくべきだと思う。
- ひきこもっている時間が長くなればなるほど、状況が悪化するような気がするので、早めに対処するのがよいのかなと思います。
- 何よりも、引きこもりが起きないようにすることが大切。起きた時は早期の察知と対応の仕組みが必要。
- 時間をかけて、気持ちを改善して行く事が大切。
- ご本人ご家族にとっても大変だとは思いますが、これからの人口減少社会にとっても、大きな損失でありもったいないことだと思います。社会復帰、自立を促すような施策をお願いします。
- 精神的に追い詰められて、周囲を傷つけるようにならないか心配である。
- 家族を始めとする関係者の苦労は計り知れないだろう。社会の成熟が求められるが、段々と未熟な方向へ向かっている様な気がする。
- 周りの人たちが、本人が一番辛いということをもっと理解してあげることが大切だと思う。上辺ではいいこと言っても、内心はめんどくさいとかやってやってみたいな人が多いと思う。
- 成田市だけでなく全国区の問題でもあるので、支援出来る範囲は限られていると思いますが、国・県・市町村が協力していくことが望ましいとおもいます
- なかなか表に出にくいものだと思いますが、有効な手立てにより一人でも多く社会自立ができればと思います。
- 社会活動が不活発な人を早く発見する。生活状況を継続トレース引きこもり予備軍を早期に見つけることで対策を早めに実行する。
- 市は本気で取り組む覚悟があるのですか。
- 行政がどこまで関わってよいのか疑問。ひきこもりの家庭のプライバシーを大切にあげないと。「助けてやるんだ！」の姿勢では逆効果になりそう。
- あくまで想像ですが、独居で「ひきこもり」というのはいないと思います。「家族が養う→その家族は年金暮らし→生活に余裕がない」。
- 「ひきこもり」に関しては、立ち入りにくく、周りには理解されないものだと思います。社会的に挫折する人間をどうやって少なくするか、挫折した人をどうやって救い出していくか、これに尽きると思います。

- ・自己責任も大きいと思う。どんな仕事でも、大変なのに、すぐ辞めるとか。病気の人もあるだろうが、結局は本人のやる気の問題の人も多そう。そういう人への税金からの支援は、微妙だと感じる。
- ・社会情勢や社会構造の変化に伴い、「甘ったれ」や「不勤勉」だけでは済まないかもしれないが、「社会の優しさ」に甘んじることなく、本人も自律できるように努力をして欲しい。税金を投入してまで「特定個人」を支援することが必要なのかが理解できない。

#### ○担当課まとめ○

今回のアンケートを通じて、多くの方が考えるひきこもりとは、学齢期から壮年期の広い世代の方を親が支援をしていると思う方が最も多く、生活の範囲としては、自宅敷地内程度の範囲が挙げられていました。また、約3割の方が身近にそのようなひきこもりの方がいることを知っていますが、本人や家族から相談を受けたことがある方は1割でした。

このことから、身近にひきこもりの方がいることは判っていても、当事者である本人や家族からは相談をすることが少ない現状が判りました。また、ひきこもりが単にご本人だけの問題ではなく、ご家族にも影響が及ぶことが懸念されています。

成田市インターネット市政モニターの皆さん、アンケートにお答えいただきましてありがとうございました。皆さんの意見は、今後の市政運営の参考にさせていただきます。

今後とも成田市インターネット市政モニターへのご協力をお願いいたします。